



2018年05月18日発行

オーストラリアで学ぶ

SSHオーストラリア海外研修

- ◇期日 3月3日(土)~11日(日)
- ◇場所 ニューサウスウェールズ州コフスハーバー
パートナー校 セント・ジョン・ポール カレッジ
- ◇参加者 1・2年生 16名
- ◇指導者 仲井美喜子・上村武史教諭

今回の参加者には初めて海外へ行く生徒が多く、緊張と期待を抱いて現地空港に降り立った。そんな私達を満面の笑みで迎えてくれたのはホストファミリーの皆さんだった。身振り手振りも交えた無我夢中での交流が始まった。



パートナー校での歓迎会では、軽食を片手に現地の生徒達と親睦を深めた。見学した授業では、日本とは違

い、生徒一人が1台のパソコンを持ち活用していた。午後には現地の生徒相手に昨年から準備してきた個人研究を発表した。発表後に質問されたり、おもしろい内容だったと言われ、相手が興味を持って聞いてくれたと分かり、嬉しかった。

ドリゴ国立公園での野外実習、サザンクロス大学海洋研究所での講義や海岸での生物観察をした。至近距離で野生のカンガルーを見る機会にも恵まれたし、マトンバードという野鳥の雛の鳴き声を聞くこともできた。植物も動物もオーストラリアと日本とは全く違うので、実習中は常に新鮮な驚きや感動があった。



研修後に多く聞かれたのは、英語が予想以上に聞き取れなかったという声だ。現地の英語に触れ、ほとんどの生徒がさらに英語力を磨く必要があると感じた。全員が普段の英語学習をもっと頑張っているというモチベーションを高めた。ホストファミリーやバディたち



は今もメールやラインでつながっている。現地での貴重な出会いと経験を大切にして、自分たちの将来に活かして行きたいと思う。

(27H 馬場 記)

英語で奮闘 イングリッシュ・サイエンスキャンプ

- ◇期日 3月10日(土)・11日(日)
- ◇場所 富山中部高校
五感リゾート牛岳ささみね・山田交流促進センター
- ◇参加者 1年生 30人
- ◇指導者 富山大学 助教・大学院生3名
富山中部高校物理・化学・生物・英語科教諭
ALT 等9名

本校 ALT ハンナ先生の講演のあと、9グループに分かれて、富山大学で研究をしておられる海外出身の先生方の指導や協力を仰ぎながら、物理、化学、生物の3分野の実験を行い、英語でレポートを作成し発表するという活動を行った。活動の中での会話、質問もほぼすべて英語で行われ、英語漬けの2日間を送り、英語の能力を高めていた。



参加者からは、「慣れないながらも楽しく実験することができた。話した英語が通じないことも多く、もどかしさを感じたが、日ごろの英語学習に対する意欲が高まった。」「実験中、発表中などに、文法などを気にする間もなく英語を話さなくてはならない場があり、英語になじむいい機会になった。理系に進む身として、理系の単語を学ぶことができてよかった。」などの感想があった。

今回の研修で、科学的な思考力、そして英語による自己発信力を大きく伸ばすことができたと思う。また、各生徒が自分の課題を発見する機会もあり、とても実りのある体験となった。



(26H 吉村 記)

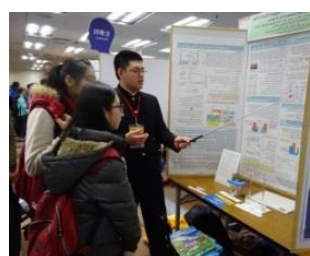
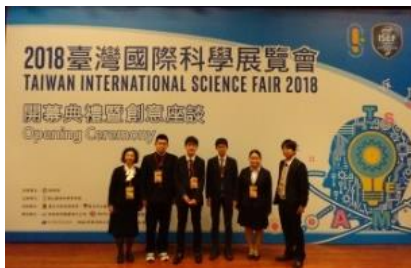
記事の詳細は、本校ホームページを御覧下さい。

<http://www.chubu-h.tym.ed.jp/>

海外に躍進！—SS化学部 TISF 参加—

- ◇期日 1月30日(水)～2月2日(金)
- ◇場所 国立科学教育館(台北市)
- ◇参加者 中田裕大(35H)・北尾駿汰(36H)
- ◇指導者 浮田直美教諭

台北市で開催された 2018 臺灣國際科學展覽會 Taiwan International Science Fair に参加して、1月31日に「銅の腐食と起電力」(第14回高校化学グランドコンテスト文部科学大臣賞受賞研究)を発表しました。審査員に対して10分以内でポスター発表し、5分で質疑を行います。発表時間を少し超えてしまったものの、何とか終わることができましたが、審査員の質問にうまく対応することができなかつたのが心残りでした。残念ながら私たちは賞をとることはできませんでしたが、この大会への参加で、数々の学びを得ました。この経験は私たちの人生に大きく影響を与えるであろうと思います。



(SS化学部 中田 記)

第7回科学の甲子園出場

- ◇期日 3月16日(金)～19日(月)
- ◇場所 埼玉県ソニックシティ・サイデン化学アリーナ
- ◇参加者 森本瑛二郎(36H)・按田智大(37H)・小小白峰(37H)
高田 真(37H)・中村圭吾(34H)・西田結哉(37H)
鷹栖光希(24H)・吉村駿人(26H)
- ◇引率者 上村武史・永井俊太郎教諭

科学の甲子園は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が創設した、高等学校等の生徒のチームが理科・数学・情報における複数分野の競技を行う取り組みで、全国の科学好きな高校生が集い、競い合い、活躍できる場だ。各県の代表校が集まる大会



なので、非常にレベルの高いものであった。出題される問題や競技では、普段のテストよりも遙かに高度な思考力、発想、知識を要

求されるため、メンバーで集まって対策を立てる際にも大変な思いをする場面が多々あったが、チームワークを発揮して準備を進め、本番にこぎ着けることができた。結果としては賞には手が届かなかったものの、今回の大会における他県の生徒との交流や、メンバー間で構築したチームワークを今後の学校生活、ひいては人生で大きな糧としていけるように今後も研鑽を積みたい。



(36H 平田・37H 西田 記)

イカも未来も切り拓け!

～SS生物部の活躍～

- ◇期日 3月26日(月)～30日(金)
- ◇場所 東京海洋大学品川キャンパス
- ◇参加者 大屋進之介(35H)・箱川翔一(34H)・平井泰蔵(34H)
- ◇指導者 真野佳余教諭

SS生物部では、「ホタルイカの漁獲量と外的環境の相関」を主なテーマとして研究しています。漁師の言い伝えや感覚をもとに、気象と翌朝の漁獲量のデータなどを分析し、仮説を立て、その検証実験を行うことで、漁師がより効率よくホタルイカを獲ることができる日や方法を見つけています。また、謎に包まれているホタルイカの生態を少しでも解明するため日々頑張っています。



3月28日に東京海洋大学で行われた公益社団法人日本水産学会春季大会の高校生による研究発表プログラムに参加



し、「ホタルイカ ～漁獲量からみたその生態～」の発表をしました。学会では、自分たちの成果を伝えることが出来ただけでなく、研究者とも意見交換ができてとても有意義なものとなりました。また、8月には長野県で行われる全国高等学校総合文化祭にも出場します。その時も充実した発表をしたいと思います。

(37H 清水 記)

今後の予定

- 5月22日(火) 2学年講演会
- 6月12日(火) 発展探究課題研究指導
- 6月21日(木) 発展探究β発表会